

門川町の未来は

草川小学校 五年 瀬山 絢清

僕の父は漁師をしています。キンツハギやカツオなどを近くの海で捕っています。しかし、魚が捕れない時は、違う県の海に行って漁をします。捕れた魚を市場に卸す手伝いをした時、魚が重くて運ぶことが大変でした。父は、ほぼ毎日この仕事をしているのです。と思います。

父が捕ってきた新鮮な魚を、母は家で刺身や煮付けにしてくれます。刺身は身が引き締まっていて、噛めば噛むほどまみが広がり、煮付けにした魚は身がふわふわしています。母が料理上手ということもありますが、門川の海で捕れた魚だからさらに美味しいと感じるのだと思います。美味しい魚を食べることができたり、気軽に釣りに行けたりするこの門川町に生まれて僕は本当によかったと思っています。

しかし、僕の好きなこの門川町にも課題があります。

一つ目は漁師や農家のように自然に関わる仕事をする後継者が少なくなっていることです。これはネットで知りました。このことによって困ることは、水揚げされる魚の量がなくなったり、魚や野菜の値段が上がったりすることです。

そこで、なぜそうやってきたのか僕なりに考えてみました。時代が変わってきて、体を使って働くことに抵抗がある人が増えてきたからではないでしょうか。

この解決策の一つとして、門川町で農水産業をしている方

の思いや工夫を発信する機会を作ると効果的だと思います。僕も十二月に地産地消について話を聞く機会があり、今まで知らなかった水産業の仕事の工夫を知ることができました。このようにして、仕事の魅力子ども達や町外の人にも知ってもらうと、その仕事に興味を持つのではないのでしょうか。

二つ目の課題は、日本中で課題となっている少子高齢化が進んでいるということです。

以前役場の方に門川町の人口についてのお話を聞く機会がありました。二十四年前の草川小学校の全校児童数は四百二人、現在は約二百九十人。これだけ見ても子どもの数になり減ってきていることが分かります。

子ども達の数が減ると、学校の数が減ります。そうすると体力面や学力面で競う相手が少なくなります。また、子どもの数が減るということは門川町全体の人口も減るということにつながるので、町全体の活気もなくなっていくと思います。

そこで、子どもが楽しく過ごせる街にするためにどのようなことができるか考えてみました。異年齢の子ども達が遊べる遊具がある公園を作ったり、近くに海があることを生かして「釣り大会」のイベントをしたり、近くの海に生息している魚達が泳ぐミニ水族館を作ったりすると、たくさんの子どもの笑顔を見ることができるようになると思います。他にも若い人達が門川町に移住してくれるように、「海や川にすぐ行くことができる」「元気な人が多くてなじみやすい」など、門川の魅力を発信して移住するメリットを知ってもらいたいと思います。

このことは人口減少を改善することにもつながるのではないで
しょうか。この前新聞の記事に「街の幸福度ランキング九州沖
縄版」で門川町が一位に選ばれていました。この記事を見て、
僕はやっぱり門川町が町外の人から見て住みやすいと思われ
ているんだなとうれしくなりました。

僕は将来、門川町で漁師か調理人になりたいと考えていま
す。なぜなら、父のように魚をたくさん水揚げして、町内外の
人に食べてもらいたいし、水揚げされた魚を母のように自分の
手でおいしく調理してみんなに食べてもらいたいからです。

この夢を叶えるために、門川町がもっと発展するように自
分でもできることを見つけていきたいと思っています。
